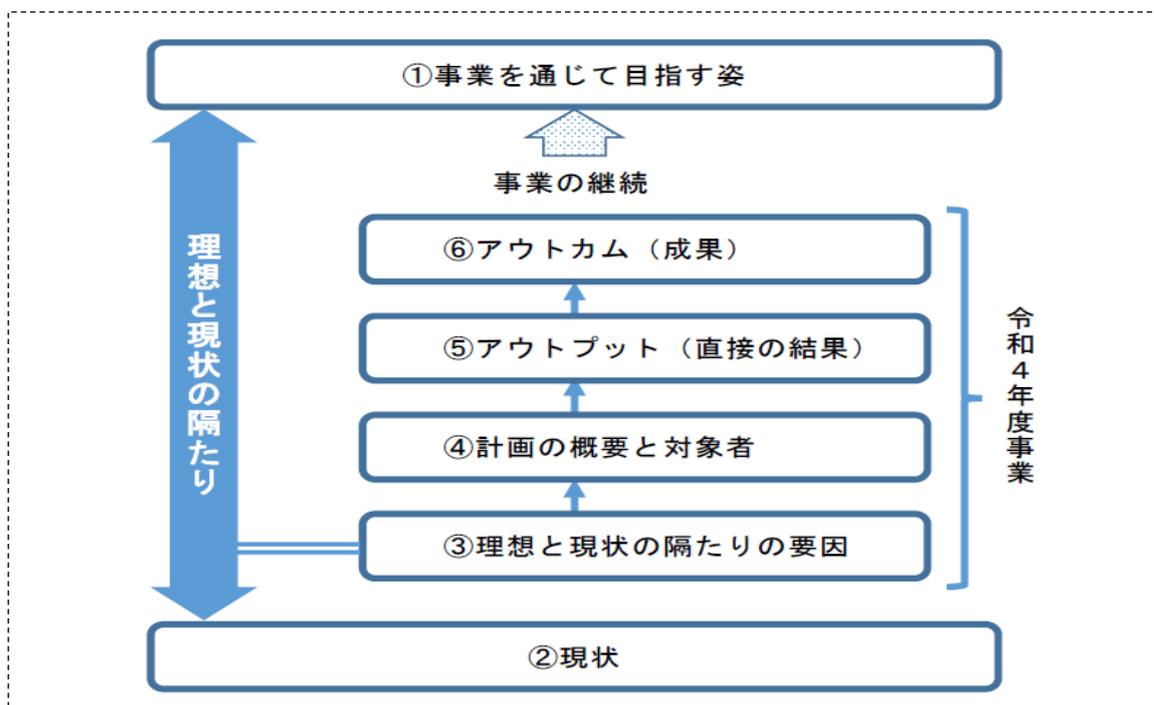


## 事業計画書

事業名	平成30年西日本豪雨災害の真備町被災者による「語り部」活動支援事業
団体名	語り部ネットワークまび

### ◆ 記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



### 1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

平成30年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指す。今後四年以内に、今回の真備の災害の記憶を後世に語り継がなければならないという思いを持つ様々な個人や団体がゆるやかに繋がり、倉敷市とその周辺地区で、被災と復興の体験を語り合い学び合う会が持続的に開催されているようにしたい。

また、真備地区外から、平成30年西日本豪雨災害の代表的な被災地として、被災体験やその後の復興まちづくりのプロセスを学びに来られる方々に対して、そのグループ・個人の多様なニーズに応じて、適切に対応できる「人=語り部」を、幅広いネットワークの中から選んで、結びつけたい。

## 2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

被災まる四年を向ける迎える西日本豪雨の被災地真備では、徐々にハード面の復興が進み、辛い被災の体験の記憶に一旦「蓋」をして前に向かって進もうとする方々も増えている。一方で毎年繰り返される全国各地の豪雨災害被災地から、平成 30 年西日本豪雨の代表的な被災地である真備の、災害の伝承や防災の取り組みも含めた復興の状況について注目が集まっている。

このなかで、被災の経験を活かして避難に支援を要する方々も含め誰一人取り残さない、二度と犠牲者を出さないための水害時の避難支援を中心に、地域住民の防災の取り組みが進んでいる。また、あの災害を世代を超えて語り継がなければならないという思いから、岡田地区の神楽土手を始め明治 26 年の災害と今回の災害、この二度の大災害の重なる象徴的な物や場所について、それを災害伝承のハード面からきちんと後世に保存し伝えていく活動を進めているグループも現れている。(まび創成の会)

私たちはそのような災害伝承のハード面での整備と足並みをそろえながら、ソフト面での語り部の活動を 1 年間続けてきた。その被災体験を語る活動の中で、様々な世代、特に若い世代の体験をきちんと言葉にして語り合い共感し合い、後世に残し伝えていく課題が見えてきた。

幸い、2021 年 9 月に開かれた『全国まちづくり会議 「復興」って何だ？真備編 ～災害復興と地域力』<https://zenmachi6mabi.peatix.com/> のオンライン配信の中で、被災前から盛んだった地域でのまちづくりの活動、商工会の活動、被災後新しく立ち上げられた地域住民の復興プロジェクトや医療福祉関係事業者のネットワークの発表、それらとともに、被災当時、小・中・高校生だった方々の、被災体験をどう受け止めそれを自分たちの未来にどう活かしていくかというお話を伺った。その時、狭い真備の中でも、それぞれの被災体験や復興への想いなど、まだまだお互いを理解し合っていない、そもそも知らなかった、初めてこの場で緩やかに繋がることができた、という感想が湧き上がった。その後この発表に参加した方々を中心に『～川と暮らす～まび結(ゆい)の会』というネットワークをつくり、語り部ネットワーク代表の大熊もライブ配信をお手伝いさせていただいた関係でそこに参加させて頂いている。

このような経過を通じて新たに発見された課題。同じ真備の中でも、それぞれの被災体験や復興への想い、それぞれの置かれた現状、その違いや多様性を、お互いに理解し合い共感し合う場というのが、まだまだこれからも真備の中で必要だということが、語り部ネットワークの取り組むべき課題としても上がってきている。

## 3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

2020 年 12 月、私達は語り部ネットワークまびとして西日本豪雨災害の経験を世代を超えて語り継ぐための真備での「プラットフォーム」として名乗りを挙げ、そこに様々な団体・個人が緩やかに繋がっている。

また、復興の最前線を走る、まちづくり団体を始め色々な分野のトップランナーの皆さんの語りは、Youtube 上でいつでも見られる動画になり、私たち語り部ネットワークまびの YouTube チャンネルでも、第一回のオールまび語り部の会の動画記録などを残していった。

コロナ禍でリアルに集まれなくなったことで、かえってこのような非同期の動画コンテンツは充実してきたと言って良い。

しかし、このような取り組みはまだまだ、地域の中では、ごく一部の方々に限定されており、その横方向への広がりにおいても、縦方向への深まりにおいても、まだまだ不十分さを否めない。

#### ●横への広がり不足

被災から三年経ち四年経つにつれて、ハード面の復興が進み、生活がそれなりに落ち着きを取り戻すにつれて、被災当時の辛く生々しい記憶は少しずつ私たちの脳裏から忘れ去られようとしている。

私どもは、当初から、語り部のスタイルについては、特定の型にはめない多様なスタイルを認めてきた。しかし、語り部活動一年目の現状では、長く続く被災後 1 年半時点からのコロナ禍にも影響され、個人の被災体験を語る狭い意味の「語り部」も、郷土史家の立場から、万葉集研究者の立場から、地域の文化芸能団体の立場から、様々な立場からのグループ・団体の、支援への感謝や復興へのアピールを本来の活動とともに展開するケースも、大きく活動制限されてはや二年経とうとしている。

さらに、大きな課題は、当初の設立時につながった経緯から、地域で被災前から活動してきたアクティブシニア世代に活動の年齢層が偏っており、年齢の多様性を意識した若い世代へのアプローチが課題として見えてきた。

#### ●縦への深まり不足

そして忘れてはならないことは、当時、51 人の尊い犠牲者のそばに居られたご家族の方、ご近所の方、支援されてきた専門職の方々。「助けられなかった」という痛恨の想いを抱きながら、その想いを吐き出し受け止めあい共感しあう場のないまま、時の流れに癒やされているのではないだろうか。他の大災害の被災地の例を見ても、そのような体験を語り合うには、まだまだ時間が必要だと考えている。

しかし、あの災害を経たこの地域の防災の取り組みが、もう二度と犠牲者を出さない地域づくりに本当に繋がっているかどうかは、あの 51 人の方々が、「そうだね。私はこんなふうに最期を迎えてしまったけれど、今のような取り組みがあつたなら、私達は無念のうちに命を落とさなくても済んだはずだね。私達の想いは生き続けるあなた達が受け継いで、語り継いでね・・・」と想像の中でも語ってもらえるように、その実効性を犠牲者の視線から常に検証していかなければならないはずだ。語り部ネットワークの毎年開かれる「語り部の会」のサブタイトルが「生かされている者の語り合い」と名付けられているのは、そのような深い意味を持っている。そのような深みに届く語りが見れるまで、私達の活動をさらに続けていく必要を感じている。

以上のような、横への広がり不足と縦への深まり不足を、「語り部」活動とその支援を、コツコツと続けていくなかで克服してゆきたい。

## 4 計画の概要と対象者（令和 4 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記 7 に記入してください）。

- 平成 30 年西日本豪雨災害の真備町住民による語り部活動を支援するために、
- ①災害伝承先進地に学ぶ「語り部研修会」の実施
  - ②多世代多様な地域住民の参加する「オールまび語り部の会」の定期開催
  - ③災害伝承のための活動成果のデジタルアーカイブ化と年次記録冊子の発行
  - ④真備への復興防災スタディツアー等に対する「語り部」の紹介

## アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

**アウトプットとは** 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

**アウトカムとは** 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

### アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、〇〇〇というアウトプットが生じ、次にその成果として、△△というアウトカムが生じる関係にあります。

### 事業実施→アウトプット→アウトカム

#### ◆ アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月4回、各回20名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成、800人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週2回、各回15名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回、各回5名利用	移動手段の選択肢の増加

## 5 アウトプット（直接の結果）

令和4年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

2022年7月の「復興展示会」に合わせた語り部研修会の実施、そして、2023年2月に復活予定の「真備市民文化祭」に合わせたオールまび語り部の会、この2つの行事をオンライン併用で、前年度以上の幅広い参加者のもとに実施し、そのアーカイブ動画をYoutubeチャンネルに上げ、沢山の方々に視聴いただき、一年間の活動を振り返った年次記録冊子を発行して、多くの方々に頒布する。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
語り部研修会の参加者数	2021/9/4 26名 (オンライン併用)	オンライン参加を含め40名
オールまび語り部の会の参加者数	2021/3/28 21名 (オンラインなし)	オンライン参加を含め40名
Youtubeチャンネルの総視聴回数 21/1/30---21/12/13	21/12/13 現在 699回	現状の150%増 1700回

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

2つの行事の参加人数を会場参加者名簿とオンライン配信の記録よりカウントする。  
Youtubeのチャンネルアナリティクスのサイトで示される視聴回数を確認する。

## 6 アウトカム（成果）

上記5のアウトプットが、令和4年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

水害常襲地である真備町で、甚大な被害を出した平成30年西日本豪雨災害の、世代を超えた伝承を進めるにあたって、災害伝承のハード面での整備と並行した語り部活動が、毎年7月の発災からの4年目5年目・・・という節目節目での展示会、そして、毎年年度末に開催される真備市民文化祭とタイアップして、より広くより深く繰り広げられ、「恒例行事」として定着することで、災害に強い地域づくりに貢献する。

## 7 計画の詳細

### (1) 具体的な内容

来年度は、今年度同様、年2回のメイン行事を考えている。

●2022/7月 復興展示会に合わせた語り部研修 《一部、まび創成の会 共催》

2014年広島土砂災害の伝承活動に学ぶ

被災4年の真備を歩くツアー《トライアル》など

●2023/2月 2022年度のオールまび語り部の会 《真備市民文化祭に並行して》

◆計画①と④ 「復興展示会」に合わせた「語り部研修」の開催

パート1-----

2014年広島土砂災害の伝承活動に学ぶ + 被災4年の真備を歩くツアー《共催》

2022/7/2 土曜予定

まび創成の会とのコラボレーションを計画している。この会は私どものネットワークにも参加していただいている森脇敏さんたちを中心に、2021年度は岡田分館を借りて復興展示会を開催し、更に、来年の7月に被災丸4年を迎えるにあたっては、倉敷市主催の慰霊祭に合わせてマービーふれあいセンターの展示室を借りてオールまびで災害と復興の展示会を計画している。

語り部ネットワークまびとしては、次年度の「語り部研修会」として、2022年7/1金曜～7/4月曜の展示期間に合わせて、7年前の大災害の記憶を次世代に伝承していくにあたって、ハード面の整備も含めて取り組んでおられる2014年広島土砂災害の被災地の皆さんの活動に学びたいと考えている。

広島から来ていただける場合は一緒に展示会も見えただき、さらに、小田川のあちこちの決壊現場とか復興防災公園ができる場所とか、自然災害伝承碑、つまり、様々な過去の歴史的な治水と災害の伝承ポイントを一緒に巡っていただくような見学ツアーの予行演習に同行していただいて、アドバイスを受けるという「被災4年の真備を歩くツアー《トライアル》」を計画している。

その際、地域外から来られた災害伝承に興味を持たれている皆さんも一緒に見て歩いて頂いて、それぞれの「現地」でその場所にふさわしい「現地語り部」のお話を一緒に聞いていただき、今後の災害伝承スタディ・ツアーの整備について、アドバイスいただくという風な形をとりたい。

また、岡田の神楽土手を含む、主要なポイントについては、事前に現地で前撮りした解説動画を見ていただいた上で、実際に現地を見ていただくということで、紹介動画の内容を検討し、まび創成の会ですすめている「QRコード付き防災マップ」の制作にも参考にさせていただきたいと考えている。

日程としては、展示期間中の土曜日7/2を計画している。

パート2-----

ミニ講演会 災害列島日本で古代万葉の人々は疫病や自然災害とどう向き合っていたのか？（仮題）

講師 峰山洋子さん（岡山県生涯学習インストラクター協会顧問・全国万葉協会会員）

2022/7/3 日曜予定

2021年3月の語り部の会で予定していたが、延期になっていた講演をここで計画している。講師のお話をきっかけに、参加者どうし、復興二年目に世界を襲ったコロナ禍で、2018年の災害からの自分自身そして地域でのつながりの中の生活総体の「復興」にどのような影を落としているか、話し合いお互いに元気づけ合う場としたい。

◆計画② 2022年度の「オールまび語り部の会」開催

2021 年度は計画していた 2022 年 2 月の 真備市民文化祭が延期となり、次年度こそは市民文化祭が被災後初めて再開されることもあり、これに合わせて、3 回目のオールまび語り部の会を並行開催させていただく計画としている。

テーマとしては「場所」にまつわる「あの時」の記憶の呼び起こしである。

まび創成の会の方々の年間計画の中で、将来的に「QR コード付き防災マップ」を整備していくという目標がある。4 年経ち 5 年経つ中で、忘れ去られようとしている「あの日あの時この場所」での記憶を、どんな些細なことでも広く収集し、その証言を動画撮影して地図と関連付けながらデジタルアーカイブ化していくという取り組みである。

そのような方向に向けては、現在、岡山大学大学院・松多教授がご指導され、まび創成の会メンバーも協力し、大学生がテスト動画として真備のさまざまなポイントに立ち、自分たちが調べた内容を短いナレーションにまとめ話している動画があり、それを地図上のその地点に貼り付けた QR コードで結びつけるというシステムを作っている。

※ QR コード付き防災マップのイメージ 画像リンク

<https://photos.app.goo.gl/PLneK4tzdxk5NrbJ6>

※ 松多教授チームの制作動画チャンネル 「防災 100 年」

[https://www.youtube.com/channel/UCj5cyjF\\_pc4EFkw9w84kYzQ/videos](https://www.youtube.com/channel/UCj5cyjF_pc4EFkw9w84kYzQ/videos)

これについて、実際に「あの日あの時のこの場所」で体験した記憶を、実際にその場所に立って話していたという地域住民による動画記録を、多くの人に呼びかけて、コツコツと撮って整理・蓄積していくという事業を、まび創成の会の皆さんと協働ですすめ、その途中経過を、次年度 2023 年 2 月の語り部の会で発表できるように計画する。

日程は例年 2 月中頃の土・日二日間、マービーふれあいセンターで開かれていた「真備市民文化祭」に合わせて、2 日目の日曜日とし、会場は、1 日目にステージ発表に使用されるさつきホール(小ホール)をお借りする予定である。

この際、2021 年度に続き多世代参加、特に若い世代の参加する語りと交流を実現するとともに、関西から先輩語り部の方をお招きし、災害伝承を含む市民文化祭の展示を見ていただくと同時に、20 年以上続けてこられた実際の「語り」をお聞かせいただき、ともに語り合えるよう計画している。

参考 まび創成の会で助成金申請に添付している資料(大熊起案) 2021/11 月

●真備町に残る神楽土手と西日本豪雨の浸水深の標示について 添付

<https://drive.google.com/file/d/1WBxvGPCMQBeT02keFoTC7R9Ya0mN5opH/view?usp=sharing>

●QR コード付きマップによるデジタル伝承館づくりという構想について 添付

<https://drive.google.com/file/d/1tMfIOGLXvZnXpC2oSd6BHA0vyGCtUW4-/view?usp=sharing>

◆計画③ 災害伝承のための活動成果のデジタルアーカイブ化と年次記録冊子の発行

今年度末 2022 年 3 月実施の第二回「オールまび語り部の会」の動画アーカイブをはじめ次年度の活動の成果をネット上に公開し、倉敷市の「まちづくりびと@倉敷」ブログを始め様々なメディアで広報し、当日参加できなかった方にも広く視聴していただく。

また、「語り部の会」「語り部研修会」などの語りや活動の記録を、記録冊子として毎年、年度末にむけ制作発行できるように計画している。

## (2) スケジュール (準備～実施～報告)

4 月	3 月実施の第二回オールまび語り部の会の動画アーカイブをネット上に公開するとともに、テキスト起こしをして年度末の記録冊子発行につなげる。
5 月	7 月の被災まる 4 年のマービーふれあいセンターでの復興展示会の実行委員会に参加
6 月	7 月の語り部研修会「広島土砂災害の伝承活動に学ぶ」(仮)について講師の調整と準備・PR
7 月	7 月 1 日から 4 日までの復興展示会と並行して「語り部研修会」の実施
8 月	語り部研修会の動画アーカイブをネット上で公開するとともにテキスト起こしをして年度末の記録冊子制作につなげる
9 月～10 月	まび創成の会の災害伝承デジタルアーカイブ作りに協力し、「この場所あの時」証言の収集の活動に参加する
11 月	真備町文化協会の市民文化祭実行委員会に参加する

12月	市民文化祭と並行して実施する第3回の語り部の会の準備開始 市民文化祭に向けて幅広い世代から新しい語り部の希望者を募る 真備市民文化祭と平行して第3回「オールまび語り部の会」の開催 活動記録のまとめとして記録冊子の発行と頒布・活動報告作成
1月	
2月	
3月	

## (3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
大熊正喜 (代表)	岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴16年。 介護施設の管理職の時代から、定年退職後も、地域で「パソコン教室」などを岡山県生涯学習大学連携講座として主催して7年。 コロナ禍に際しては、真備の復興の中でつながりを絶やさないために、ICT技術の普及、地域諸団体のZOOM会議やネットでの発信の支援に努めている。 マービーミュージカル in 倉敷の代表として2022年度末には復興をテーマとしたミュージカルを倉敷市創作舞台育成事業の一環として上演する。	
大熊明美 (事務局長)	理学療法士として高齢者医療・福祉におよそ30年従事、箭田にある居宅介護支援事業所の管理者として勤務していた時に事業所が被災し退職した。地域ボランティア・放課後デイサービスにて活動中である。岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴10年、講師として現在も活動を継続中である。 「人間学」「教育学」の学位取得 令和2年小学校教員免許取得	
矢吹顕孝 (副代表)	一般社団法人 お互いさま・まびラボの事業として語り部「七夕会」を主催し、2019年12月より語り部活動にも従事している。 参照誌「川と暮らす」は現在続編を制作中。	
森脇 敏 (運営委員)	地域住民の団体「真備・岡田の復興・再生を考える会」を仲間と立ち上げ、郷土史家としての長年の活動をもとに、2019年1月より、過去の災害の歴史や今回の災害の原因について調査研究し、2021年3月の語り部の会では「高梁川と小田川の水害と治水の歴史」についての講演が好評を博し、その後、倉敷ケーブルテレビでもスタジオ収録し放映された。	
山口敦志 (運営委員)	箭田まちづくり推進協議会 前会長 真備図書館を拠点に活動している「真備語りの会まきび」で朗読や読み聞かせの会を主導している。	
峰山洋子 (運営委員)	岡山生涯学習 インストラクター協会顧問 全国万葉協会会員 自らの被災体験とともに、専門の万葉集から「万葉の人々の災禍との向き合い方」について、町外の公民館で話す機会を持っている。	
土屋雅子 (運営委員)	真備図書館を拠点に活動している朗読「まきび・野の花」代表である。ほとんどのメンバーは被災し散り散りになったが、練習会場を確保、活動を再開し2019年12月には真備保健福祉会館で津波災害の物語「いなむらの火」などの作品の朗読発表会を行ない、2021年3月の語り部の会でも指導されている石飛倫子さんと二人でこの作品を上演していただいた。	
10名を超える場合は、外〇〇名としてください⇒		外( )名

(様式第2号)

8 受益者負担 ※事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: 年次記録冊子の頒布に際して寄付を募る。)

(2) 徴収しない(理由: 生活再建途上の真備住民への経済的負担は避ける。)

## 収支予算書

## 1 収入の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
受益者負担			
会費からの繰入			
その他		82,000	寄付・出版物頒布のカンパなど
市補助金		279,000	
<b>収入合計</b>		<b>361,000</b>	(支出合計と一致)

## 2 支出の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
人件費(会員) ※1		0	
交通費(会員) ※1		0	
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)		60,000	22/7月広島 23/2月関西 各30000×2回 2名予定
旅費交通費(講師等)		47,000	新幹線 関西圏 6220×4 広島-新倉敷 5380×4
消耗品費		10,000	コピー用紙 2500枚 2040円 模造紙 100枚 3589円 インクカートリッジ 3709円
印刷製本費		203,000	年次記録冊子 デザイン制作 80000 印刷製本 120,000 ポスター カラーコピー 3,000
通信運搬費		2,000	郵送費 定形外@120×15 2000
保険料			
使用料・賃借料		27,000	マービーふれあいセンター 22/7 復興展示会関連 リハーサル室 8030 23/2 市民文化祭関連 さつきホール 18780
外注費・委託費		0	
<b>対象経費計</b>		<b>349,000</b>	
食糧費		12,000	イベント 飲み物代 200×のべ60人
人件費		0	
その他		0	
<b>対象外経費計</b>		<b>12,000</b>	
<b>支出合計</b>		<b>361,000</b>	(収入合計と一致)

※1: 会員に支払う人件費交通費は、協働事業部門のみ計上でき、その合算額は対象経費計の1割を上限とする。

※2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入する。

# 組織運営体制

団体名	語り部ネットワークまび
ふりがな	かたりべねっとわーくまび
法人格 (○をつけてください)	○任意団体
CANPAN 登録の有無	○有

※CANPAN: 日本財団及び特定非営利法人 CANPAN センターが運営する, 市民・NPO・企業などの活動を支援する WEB サイト

※以下の項目は, CANPAN に登録する情報と同等の内容です。登録済みの場合は, そちらを参照すると便利です。

※新規チャレンジコースに申し込む団体は, **情報のある項目のみ**記入してください。

## 1 組織体制

任意団体活動開始年月	2020 年 12 月 (西暦)
法人格取得年月	年 月 (西暦) なし
事務所 所在地	倉敷市玉島長尾 67-13
代表者	職・氏名 代表 大熊正喜
	電話番号 090-3639-0993 (連絡可能時間帯 7:00 ~ 23:00)
ウェブサイト URL	<a href="https://www.facebook.com/kataribemabi">https://www.facebook.com/kataribemabi</a>
活動地域	倉敷市真備町とその周辺
役員数・職員数計	7 名 (役員 7 名, 職員 0 名)
設立年月	2020 年 12 月
活動分野 (該当に○をする) (複数回答可)	子ども・青少年・障がい者・高齢者・在日外国人・留学生・福祉・保健・医療・教育・学習支援・ <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ <input checked="" type="checkbox"/> まちづくり・ <input checked="" type="checkbox"/> 文化・芸術の振興・スポーツの振興・環境・エコロジー・災害救援・ <input checked="" type="checkbox"/> 地域安全・人権・平和・国際協力・国際交流・男女共同参画・IT の推進・科学技術の振興・経済活動の活性化・起業支援・就労支援・労働問題・消費者保護・市民活動団体の支援・観光・農山漁村・中山間・助成活動・食・産業・漁業・林業・行政監視・情報公開・行政への政策提言・学術研究・その他 ( )
活動目的 (規約等に定めるもの)	平成 30 年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指す。今後 5 年以内に、「語り部の活動をしたい、しなくてはならない」の思いを持つ個人や団体が繋がり、倉敷市とその周辺地区で、被災と復興の体験を語り合い学び合う会が持続的に開催されているようにしたい。 また、真備地区外から、西日本豪雨災害の代表的な被災地として、被災時の体験やその後の復興まちづくりのプロセスを学びに来られる方々に対して、その多様なグループ・個人のニーズに応じて、適切に対応できる「人=語り部」を、真備地区の幅広いネットワークの中から選んで、結びつけたい。
設立以来の主な活動実績	平成 30 年西日本豪雨の被災地真備地区で、この災害をくぐり抜け復興に向けて歩んでいる私達の体験を、次の世代に語り継ぐ活動が必要であるという声はあちらこちらから出ており、実際に、様々な場所で一部の先進的な団体・個人が被災体験

	<p>を語る機会を持っている。</p> <p>私達は、このような動きを緩やかにつなぎ、それぞれが取り組む災害伝承の活動を「オールまび」で、より組織的・継続的にこなう必要を感じ、2020年12月にそのネットワークの核になるべき者たちが発起人となり「語り部ネットワークまび」を設立した。</p> <p>2021年3月に 第一回「オールまび語り部の会」を開催し、その後、年間計画で、毎年夏には「語り部研修」年度末に「オールまび語り部の会」を定期的に開催して行くように計画し 実施している。</p>
現在特に力を入れていること	<p>コロナ禍で多くの人と一緒に集まれないので、ZOOM でつながり、録画機能を使ってアーカイブ動画を Youtube 上に残して、その場に参加できなかった多くの方にも見ていただいている。</p>

## 2 団体概要と財政状況

団体の活動・業務 (事業活動の概要)	<p>平成30年西日本豪雨の真備での災害伝承を目的とした様々なスタイルによる語り部の活動を継続的に実施できるような緩やかなネットワークをつくり、語り部研修や語り部の会を定期的に開催して それをアーカイブ動画に残し 年次記録冊子を発行している。</p>
今後の活動の方向性	<p>当初の私達のネットワークが、年齢的には中高年層に偏りがあるため もう少し若い層、特に被災時に小・中・高校生だった 真備の未来を担う若者たちに、自分が体験した 災害とそこからの復興の経験を 多くの 多世代の 人達に伝えられるように、ネットワークを広げていきたい。</p> <p>また 主に災害伝承を 7月の展示会や 災害伝承のための屋外サイン 設置など、ハード面から進めようとしている「まび創成の会」の活動について、「語り部」というソフト面から、連携することを計画している。</p> <p>復興の毎年の節目である7月にこの会が定期開催する「展示会」と併行して、災害伝承の先進地から 講師をお招きし語り部研修会 を開いたり、真備地区内を巡るスタディツアーを共催することを計画している。</p>
最新決算総額 (該当に○をする)	<p><input type="radio"/>100万円未満・100～500万円未満・500～1,000万円未満・1,000～5,000万円未満・5,000～1億円未満・1～5億円未満・5億円以上</p>
定期刊行物	<p>語り部ネットワークまび 2021年度記録冊子 年度末発刊予定</p>

## 3 活動概要と協働実績

助成金・補助金等の支援を受けた実績	<p>マルセンススポーツ文化振興財団 2021年度スポーツ文化活動助成</p>
他NPO・市民活動団体との協働実績	<p>一般社団法人 お互いさま・まびラボ 語り部「七夕会」          箭田まちづくり推進協議会          まび創成の会          朗読「まきび・野の花」 真備語りの会まきび          學舎まび マービーミュージカル in 倉敷</p>
企業・団体との協働実績	
行政との協働実績(委託事業など)	<p>2021年12月19日「まびがく 青年地域ボランティア研修会」ということで岡山青年協議会が募集し、岡山バトンという岡山大学生の被災地支援のグループが、私ども 語り部ネットワーク の facebook ページで「語り部」の人選を依頼してこられ、真備支所のまちづくり推進協議会連絡会の事務局担当者とは打ち合わせながら、学生側の要望する「語り部」の方とおつながりしている。</p>